

！ 避難時の心得

避難行動の留意点

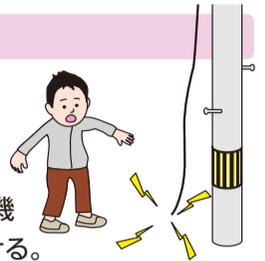
避難するときの服装

- ヘルメット、帽子などをかぶる。
- 非常時持ち出し品はリュックサックに入れて背負う。(両手が使えるように)
- 長袖・長ズボンを着用する。
- 軍手や手袋をはめる。
- 靴は底の厚い、履き慣れたものを着用する。
- 夜間は懐中電灯を持つ。



避難時のポイント

- 避難する前にもう一度火元を確認する。
- ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーも切る。
- 持ち出す荷物は最小限にする。
- 避難する時は、狭い道やブロック塀、自動販売機のそば、川べり、ガラスや看板の多い場所を避ける。
- 子ども、障がい者、高齢者など避難行動要支援者がはぐれないよう配慮をしながら避難する。



避難所での心得

共同生活

- 常に助け合いの精神で過ごしましょう。
- 定められた共同生活のルールを守りましょう。
- 避難所運営は避難者自らが行う自主運営とし、積極的に避難所運営に協力しましょう。
- 間違いのないよう所持品には記名し、1か所にまとめておきましょう。



生活環境を衛生的に

- ゴミは分別して所定の場所へ出しましょう。
- トイレはきれいに使いましょう。
- 清掃などは協力して定期的に行い、清潔な状態を保ちましょう。

安全にも配慮を

- 余震など災害の危険が続く恐れもあります。危険な場所には近づかないなど十分注意し、異常を見つけたら運営組織等に報告しましょう。
- 避難所には不特定多数の人が出入りします。不審なことに気づいたら、運営組織等に報告しましょう。
- 共有スペースは火気厳禁です。喫煙等は決められた場所を守りましょう。



避難行動要支援者やプライバシーへの配慮

- 車いすのひとが通行できるよう段差をつくらないなど、バリアフリーに配慮しましょう。
- おむつ交換や着替えなどができるように、別室の確保や間仕切りやカーテンでスペースを設けるなどしましょう。
- 避難所の運営には女性も加わり、女性の意見も取り入れた避難所運営を行いましょう。



🐕 災害時のペット対策

飼い主の役割とは

常に飼い主としての責任を果たす「心構え」を持つことです。ペットを飼う権利と共に果たさねばならない義務を常に意識し、平常時から災害に対する「十分な備え」をしましょう。耐震補強などにより自宅の被害が少なく、また物資の備蓄をすることで、災害時でも在宅で生活できることが、ペットにとっても大切なことです。



ペットを守ること

災害からペットを守ることができるのは、飼い主だけです。自分が無事であることと共に下記の3点が重要となります。



- **飼い主自らの安全を確保すること**
→ 災害時にペットを適切に飼育するための絶対条件
- **平常時から適正な飼育(健康面・しつけなど)**
→ 最も有効な災害対策
- **ペットと共に避難**
→ 災害時はペットを落ち着かせ、逸走・けが等に注意

ペットの同行避難

- 「同行避難」とは、被災者とペットが同一の居住スペースで生活可能な「同伴避難」と異なり、ペットの飼育は人の居住スペースではなく、風雨のしのげる場所でケージに入れて飼育していただくことを指します。

- 同行避難が可能なペットは、犬や猫などの小型の哺乳類、鳥類を対象とします。人に危害を加えるおそれのある大型動物や危険動物、ワニガメやニシキヘビなどの特定生物や特定外来生物に指定された動物や設備環境により、飼育が困難な動物は含みません。

飼い主のためのペット同行避難マニュアル

- 避難所生活に適應できるよう、日頃から必要なしつけと健康管理を行いましょう。避難者への迷惑となる行動を防止すると共に、ペット自身のストレスの軽減にもつながります。

- 避難先において、ペットの飼育に必要なものは、飼い主が用意する必要があります。飼育に必要なものは、少なくとも5日分(可能であれば7日以上)は、用意しておきましょう。